

■開催期間

2025年9月4日(木)～12月19日(金)

■会場

大阪府工業協会 研修室 ※特別見学会を除く
大阪市中央区南本町2丁目6-12 サンマリオンタワー4階
地下鉄 御堂筋線・四つ橋線「本町」駅 ⑨番出口より徒歩約4分
堺筋線・中央線「堺筋本町」駅 ⑧番出口より徒歩約3分

■参加費

全5回の参加費として、1名につき 82,500円 ※消費税10%を含む
特別見学会の参加費については第1回開催日までのご案内いたします。
【振込先】 ・三井住友銀行 備後町支店 当座 No.201068
・三菱UFJ銀行 信濃橋支店 当座 No.321966
・りそな銀行 大阪営業部 当座 No.1027054
※各回個別の参加申し込みは承っておりません。通しでご参加ください。(代理出席可)
※特別見学会については、研究会参加メンバーから希望者を募って実施いたします。
(オプションであり別途参加費が必要です。)

■申込方法

下欄の参加申込書を当協会宛にFAXにてお送りください。(ホームページからもお申し込みいただけます)
折り返し、請求書を電子ファイルでお送りいたします。(恐縮ですが振込手数料はご負担ください)
※9/2(火)以降の取り消しの場合、参加費を全額ご負担いただきます。
また、欠席された回の返金はいたしませんので、ご都合のつかない場合は代理の方がご出席ください。

(会場案内図)



環境テクノロジー研究会 参加申込書

申込日:2025 年 月 日 No.6313-4704 AT

会 社 名	ふりがな				
所 在 地	〒		—		従業員数
	TEL		FAX		
申込担当者 ※請求書などのお送り先	部署名 役職名		氏名		
事業内容 取扱製品・商品など			Email	@	

ご参加者

氏 名	ふりがな				
所属部署名 および役職名					
連絡先	TEL		Email	@	

※2名以上でお申し込みの場合は、この申込書をコピーしてご記入ください。
※参加費はお一人ずつ必要です。(1名で申し込まれ、開催回によって出席者を交代されても結構です)
※参加者名簿を作成し講演者に配布いたします。(氏名、会社名、役職、事業内容を一覧表にします)
お申し込みは ▶ FAX 06-6245-9926 公益社団法人 大阪府工業協会 <https://www.opmia.jp/>
※申込書にご記入いただいた内容は、事務処理(請求書・受講票の発行等)・講演者への参加者名簿提示のほか、研修案内の送付に利用させていただく場合がございます。内容の訂正・利用停止をご希望の際は、当協会までご連絡ください。

こんな方におすすめ👉

▶中小企業で環境経営を始めたい経営者・担当者

▶大手企業で他社事例を参考にしたい環境担当者

2025年9月スタート 全5回

13:30～16:30

※別途、特別見学会あり

環境テクノロジー研究会

脱炭素×循環×共生
企業の未来、価値創造への挑戦

企業規模に関わらず、環境に配慮した経営を求められています。
気候変動や生物多様性など世界的な環境問題への対応が進められており、日本では 2050 年カーボンニュートラル宣言や新たな 2030 年度温室効果ガス排出量削減目標が設定されました。
こうした状況のなか、人材など資源制約がある企業が、環境課題を把握し、経営に組み込むことは難しいとされています。
そこでこの研究会では、環境課題について知ることから始め、今求められていることを把握し、自社の環境経営のあり方を考えていただくことを目的として開催します。ぜひご参加いただき、変革に対応する事業体制を考える場としてお役立てください。

《主催》 公益社団法人 大阪府工業協会

〒541-0054 大阪市中央区南本町 2-6-12 / TEL:06-6251-1138



第1回 カーボンニュートラル① 9月4日(木) 13:30~16:30

基調講演 1 ▶ 13:30~15:00

『バリューチェーン全体での脱炭素経営』

昨年度開催された COP29 や今年 2 月に閣議決定された温暖化対策計画をはじめとした脱炭素をめぐる動きは加速しています。こうした背景を踏まえたうえで、企業間取引における Scope3 削減などバリューチェーン全体での脱炭素化の必要性や、なぜ脱炭素経営なのか、なぜサプライヤーエンゲージメントなのかをお話します。そのうえで、中堅・中小企業も含めた脱炭素化に向けた環境省の取り組み事例を踏まえながらご紹介いたします。

講演 ▶ **環境省** 地球温暖化対策課 脱炭素ビジネス推進室

事例講演 1 ▶ 15:00~16:30

『ダイキンが目指すカーボンニュートラル』

世界が脱炭素への歩みを加速し、各企業の取り組みは不可欠のものとなりました。ダイキンは 2050 年に温室効果ガス排出実質ゼロを目指す「環境ビジョン 2050」を掲げ、事業戦略と紐づけてバリューチェーン全体でカーボンニュートラル実現に向けたさまざまな取り組みを行っています。本講演ではダイキングループが世界で増え続ける空調需要に応えながら、脱炭素社会の実現に貢献するための Scope1,2,3 それぞれの取り組みをご紹介します。

講演 ▶ **ダイキン工業 株式会社** C S R ・地球環境センター

第2回 カーボンニュートラル② 9月30日(火) 13:30~16:30

事例講演 2 ▶ 13:30~15:00

『積水化学グループの脱炭素経営』

2050 年カーボンニュートラルの実現に向けては、脱炭素経営への移行が必須とされています。本講演では、気候変動リスクの認識を踏まえたうえで、どのように企業としての方向性を打ち出せばよいか、戦略、計画、施策を策定し取り組みを推進していけばよいか、企業規模に関わらず実践出来る取り組みを、積水化学グループの事例をベースとしながらお伝えします。

講演 ▶ **積水化学工業 株式会社** ESG 経営推進部 環境経営グループ

事例講演 3 ▶ 15:00~16:30

『Daigas グループによるエネルギートランジション 2050』

2025 年 2 月に第 7 次エネルギー基本計画が閣議決定され、気候変動対策としてのエネルギー構造転換と産業政策を一体化させる方向性が打ち出されています。このような中、Daigas グループはエネルギーの安定供給・保安の確保と、カーボンニュートラル化の両立を目指した取り組みをより具体化させるため、同月に Daigas グループ エネルギートランジション 2050 を公表しました。本講演ではその内容をご紹介します。

講演 ▶ **大阪ガス 株式会社** 企画部 カーボンニュートラル推進室

第3回 サーキュラーエコノミー 10月14日(火) 13:30~16:30

基調講演 1 ▶ 13:30~15:00

『成長志向型の資源自律経済の確立に向けた取り組みについて』

近年では、廃棄物問題や気候変動問題に加え、世界的な資源需要と地政学的なリスクの高まりといった資源制約が深刻化しています。この状況下、サーキュラーエコノミーへの移行は喫緊の課題です。本講演では、このような世界的な潮流を踏まえ、日本における資源循環経済政策の最新動向をご紹介します、具体的な現状、新たな取り組み、今後の展望についてお伝えします。

講演 ▶ **経済産業省** イノベーション・環境局 GX グループ 資源循環経済課

事例講演 1 ▶ 15:00~16:30

『カネカグループの資源循環への取り組み』

カネカグループは「環境・エネルギー」、「食糧」、「健康」の 3 分野を解決すべき社会課題と捉え、革新的な素材開発によるソリューションの提供を目指しています。環境・エネルギー領域においては、脱炭素への取り組みに加え、資源循環を実現する素材の提供も当社の Purpose であると認識しています。本講演では、カネカグループの資源循環の実現に向けた取り組み事例をご紹介します。

講演 ▶ **株式会社 カネカ** 信頼の生産力センター 品質・地球環境センター

※会場での講演を予定しておりますが、状況により講演者がオンラインでの講演となる場合がございます。

※日程や開催順序、講演者が変更となる場合があります。

第4回 生物多様性① 11月7日(金) 13:30~16:30

基調講演 1 ▶ 13:30~15:00

『生物多様性に取り組むトップランナー大阪をめざして』

生物多様性は私たちの生活を支える基盤であり、持続可能な社会の実現に欠かせません。生物多様性がもたらす恩恵や 3 つの多様性、生物多様性を脅かす 4 つの危機に加え、具体的な取り組みプロセスと事例はなにか。生物多様性への理解を深め、生物多様性に取り組むトップランナー大阪を目指すために、本講演では、生物多様性の重要性と事業活動における取り組みについてお伝えします。

講演 ▶ **地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所** 環境研究部

事例講演 1 ▶ 15:00~16:30

『生物多様性の損失に対する企業のアプローチ』

私たちは、3 つの環境危機、すなわち、「気候変動」「生物多様性の損失」「汚染」という課題に直面しています。相互依存関係にあるこれらの課題に対して、企業はどのようにアプローチすることができるのか、「生物多様性の損失」に対する取り組みを中心に、自然資本リスクに関する開示枠組みである T N F D レポートを踏まえながら、カナデビア株式会社の事例をベースにお伝えいたします。

講演 ▶ **カナデビア 株式会社** サステナビリティ推進室

第5回 生物多様性② 11月28日(金) 13:30~16:30

事例講演 2 ▶ 13:30~15:00

『環境と経済の好循環を目指す結の森プロジェクト』

2006 年、コクヨは高知県四十万町大正地区の民有林を「結の森」と名付け、「人工林の再生」と「自然環境と地域社会の再生」をテーマに、間伐材の有効活用を中心とした森林保全を開始しました。その結果、2007 年より FSC® (Forest Stewardship Council® 森林管理協議会) の森林認証を取得しています。「結の森」は現在、対象面積は 5,425ha、累計間伐面積が 2,164ha まで拡大しています。本講演ではその内容をご紹介します。

講演 ▶ **コクヨ 株式会社** CSV 本部 サステナビリティ推進室

事例講演 3 ▶ 15:00~16:30

『「天然水の森」における生物多様性の意義』

サントリーは自然と水の恵みに生かされる企業として、「天然水の森」活動を 2003 年に阿蘇から開始しました。今では全国 16 都府県 26 カ所、約 12,000ha (2025 年 5 月現在) に広がり、国内工場で汲み上げる地下水量の 2 倍以上の水を育んでいます。この良質な地下水、すなわち天然水を育むため、国内工場の水源エリアで行っている、森林と生物多様性を保全・再生する活動についてお伝えします。

講演 ▶ **サントリーホールディングス 株式会社** サステナビリティ経営推進本部

特別見学会 環境に配慮した最新プラント 12月19日(金) ※オプション

『株式会社 ハイドロエッジ（商業用液化水素製造拠点）』

ハイドロエッジは、岩谷産業（株）と関西電力（株）がそれぞれ 50% ずつ出資する合弁会社として 2004 年 4 月に設立されました。2006 年 4 月には国内初の商業用液化水素製造拠点として営業運転を開始しました。液化水素製造プラントのほか、エア・セパレーションガス製造プラント、液化炭酸製造プラントを 24 時間体制で運転・管理しています。「安全を確保しながら、環境に配慮したシステムを活用し、効率的かつ安定的に高品質な製品を生産、お客様に安心してご使用いただく」ことに努め、水素エネルギー社会の早期実現に貢献することを目指しています。

訪問 ▶ **株式会社 ハイドロエッジ** 大阪府堺市西区築港新町 3-1-23

【特別見学会において】

- ・環境テクノロジー研究会参加メンバーから希望者を募って実施いたします。（先着順）
- ・オプションであり、別途参加費が必要です。
- ・募集要項や参加費については第 1 回開催日までに関開いたします。
- ・集合場所など詳細については第 5 回開催日までに関開いたします。（自家用車は不可）
- ・定員に達した時点で募集を打ち切りとさせていただきます。

※競合にあたる企業からの参加はご遠慮いただく場合がございます。

※講演の録画や録音はご遠慮ください。